

経営比較分析表（令和3年度決算）

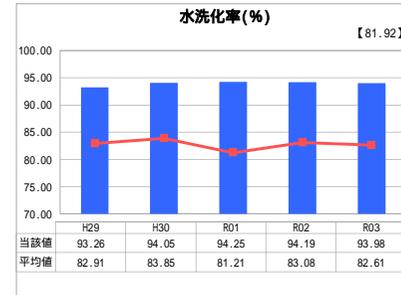
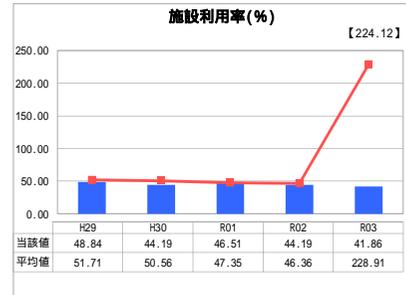
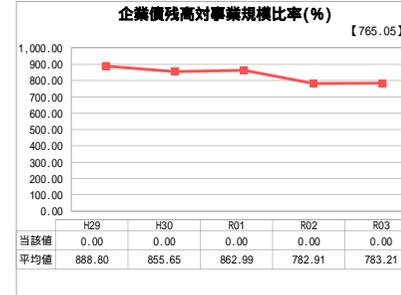
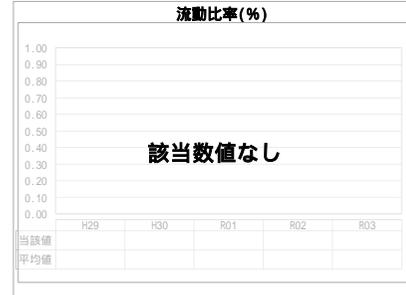
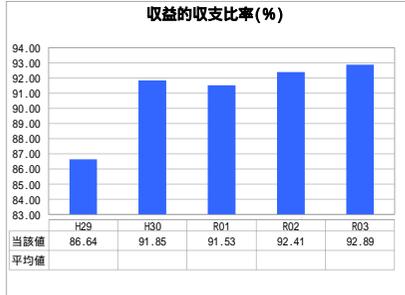
熊本県 山鹿市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	個別排水処理	L2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	該当数値なし	0.17	100.00	2,560

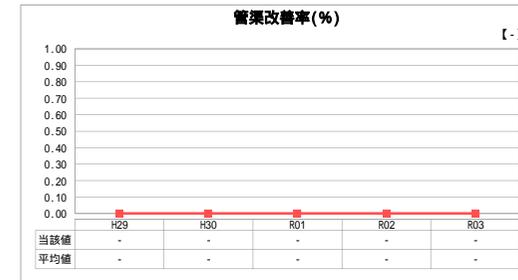
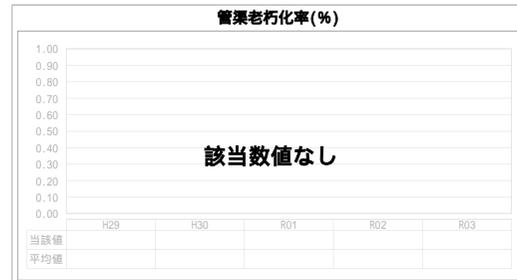
人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
50,051	299.69	167.01
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
83	0.49	169.39

グラフ凡例
当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
【】 令和3年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



分析稿

1. 経営の健全性・効率性について

収益的収支比率（収益で費用を賄っている比率）は改善傾向にあるが、財源を一般会計からの繰入金に依存しているため、維持管理費の削減を図っていく必要がある。
 経費回収率（経費を使用料で賄えているかの指標）は、類似団体平均値より低い水準にある。維持管理費の削減と使用料改定の検討が必要である。
 汚水処理原価（汚水処理に要した費用）については、類似団体平均値と比較して高い水準にある。人口減少に伴い使用料収入の減少が見込まれるため、今後抜本的な経営改善が必要である。
 施設使用率（1日に対応可能な処理能力に対する、1日平均処理水量の割合）は、浄化槽の処理能力が家の床面積で決まるため、居住者が少なければ低くなる。そのため、人口減少により数値は減少傾向にあると考えられ、今後の施設のあり方について検討する必要がある。
 水洗化率（汚水処理している人口の割合）については、類似団体平均値と比較すると高い水準にあるが、今後の人口減少に伴い低下していくおそれがある。

2. 老朽化の状況について

老朽化については、本事業は整備完了からあまり期間が経過していないため、現状において大規模な修繕等は見込まれないが、今後も保守点検を行い適正な維持管理に努める必要がある。

全体総括

当面は更新の必要はないが、今後、施設の老朽化による維持管理費の増加や、人口減少がますます進むことから、施設のあり方について、多角的な視点での検討が必要となってくる。経営戦略は平成28年度に策定済みで、令和3年度改定したが、地方公営企業法の適用に伴い、再度見直す予定としている。